

## 学生が企画する「レポートの書き方講座」の効果検証 ～昨年度の企画から見えてきた課題を踏まえて～

向井将馬<sup>1)</sup>、藤原誠哉<sup>1)</sup>、新免 歩<sup>1)</sup>、亀岡由佳<sup>2)</sup>、遠藤博文<sup>2)</sup>、上田勇仁<sup>3)</sup>、吉田 博<sup>3)</sup>

1) 徳島大学理工学部 2) 徳島大学附属図書館 3) 徳島大学総合教育センター

### 1. はじめに

我が国において初年次教育を実施する大学は2015年度現在で97%であり(文部科学省2017)、現在進められている高大接続改革においても、初年次教育は明確に位置づけられている(濱名2018)。徳島大学においても、初年次教育プログラム「SIH道場～アクティブ・ラーニング入門～」を実施しており、2018年度は開講から4年目に当たる(徳島大学2018)。このように、初年次学生の支援は、我が国の大学において必要な取り組みとして定着したと言える。一方、徳島大学では、ピア・サポート活動として、学生による初年次学生の学習支援も行われている。サポート系サークル「学びサポート企画部」は、2014年からほぼ毎年4月に1年生を対象とした「レポートの書き方講座」を企画しており、本企画の参加者数は年々増加している(向井ほか2018)。

本研究では、学びサポート企画部のレポートの書き方講座について、2017年度の企画と比較を行い、2018年度企画したレポートの書き方講座、及びSTEP UP講座を検証することで、徳島大学における、学生による学習支援の在り方を考察する。

### 2. 学びサポート企画部

学びサポート企画部は、「大学生の日々の学習における躓きに対して、学習支援を行うとともに、学習をするために必要な基本知識・技能を習得する場や機会を創ることで、大学生の学習スタイルの向上、改善を行う」という理念のもと、活動している。学生12名と助言指導に当たる図書館職員2名、教員2名で構成されており(2018年11月現在)、大学図書館と協働して、大学生を対象に、学習相談や大学での学習や研究に対する動機づけを目的としたイベントを企画・実施している。

### 3. レポートの書き方講座・STEP UP講座

2018年度はレポートに関する基本的な知識を習得することを目的とした「レポートの書き方講座」に加え、より実践的にレポート作成のスキルを習得することを目的とした「STEP UP講座」を実施した。レポートの書き方講座は、4月23日、24日に文系1回・理系2回、講義形式で実施し、3回合わせて291人の学生が受講した。(表1; 図1)。STEP UP講座は、5月15日にループリックを用いて、実際のレポートの評価を行う、グループワーク形式で実施し、11名が参加した(表2)。2018年度の本企画の特徴は、2017年度の企画の検証から明らかになった課題を踏まえ、学生の授業の時間割を考慮し、18時以降にも講座を開講するとともに、特に受講希望が多い理系分野の講座を2回開催したことである。また、知識の習得のみに留まらないように実践的な学習に繋げるための講座も開設した。

### 4. 参加者アンケート

レポートの書き方講座、及びSTEP UP講座では、参加者を対象にアンケートを実施し、それぞれ272名、11名から回答を得た。図2は、5件法の設問に関するアンケート結果を2017年度のレポートの書き方講座の結果と共に示したものである。STEP UP講座は、参加者数が少ないことから、レポートの書き方講座との数値の比較には、回答数の差を考慮しておく必要がある。

2017年度、2018年度のレポートの書き方講座の結果を見ると、「1. レポートを書く時に注意すべき点を理解することが出来たか?」という設問では、90%以上の学生が肯定的な回答をしており、本企画の目的は概ね達成できていることが分かる。その他の設問についても、両年度ともに

同様の結果であることが分かる。

次に、STEP UP 講座のアンケート結果を見ると、各設問において最も肯定的な回答である「5. そう思う」の割合が、レポートの書き方講座よりわずかに高いことがわかる。特に、「2. 今後、レポート課題が出された時に、適切なレポートを書くことができると思いますか？」という設問では、約2倍である。これは、レポートの書き方講座において、レポートの書き方に関する知識を得ることができても、実際に書くことについては自信がないという課題に対して、対応できる可能性があることが伺える。

大人数を対象とした実践形式の講座の開講は困難であるが、ある一定の効果が見られることから、講座の内容や構成を工夫することで、初年次学生の支援を充実させることができると考える。レポートの書き方講座からSTEP UP 講座への接続なども検討し、STEP UP 講座の参加者数を増加させることも今後の課題である。

## 5. まとめ

以上の考察より、レポートの書き方講座は、初年次学生に必要となる、レポート作成に関する知識の習得について、貢献しているといえる。参加者数も年々増加し、満足度も高いことから今後も開催していくべきであると考えます。また、2017年度の企画の課題を踏まえて開催したSTEP UP 講座は、レポート作成に関するスキルの獲得において一定の効果があると推察できる。今後は、STEP UP 講座の内容や実施方法を工夫し、参加定員を

増やし、参加者数を増加させる必要がある。また、企画の工夫と共に、より効果的な学習支援の在り方を模索するための実践研究も継続して行うことが求められる。

表1 レポートの書き方講座の概要

開催日	分野	講師	場所	参加者
4月23日 16:30-17:30	理系	南川慶二	教養教育 4号館301	106名
4月23日 18:30-19:30	文系	井戸慶治	教養教育 4号館301	79名
4月24日 18:30-19:30	理系	古屋 玲	教養教育 5号館302	106名

表2 STEP UP 講座（レポートの書き方）

開催日	分野	講師	場所	参加者
5月15日 18:00-19:30	文理 共通	上田勇仁	図書館 ラーニング・モンス	11名



図1 レポートの書き方講座の様子

## 参考文献

- 1) 文部科学省 (2017) 「平成 27 年度の大学における教育内容等の改革状況について (概要)」。
- 2) 濱名篤 (2018) 「高大接続改革と初年次教育」、『進化する初年次教育』, 44-55。
- 3) 徳島大学 (2018) 「学生と教員が共に成長する「SIH道場—アクティブ・ラーニング入門—」  
<http://www.tokushima-u.ac.jp/campus/education/acceleration.html> (2018.11.5)
- 4) 向井将馬ほか (2018) 「学生が企画する「レポートの書き方講座」の意義」, 平成 29 年度大学教育カンファレンス in 徳島発表抄録集, 24-25。

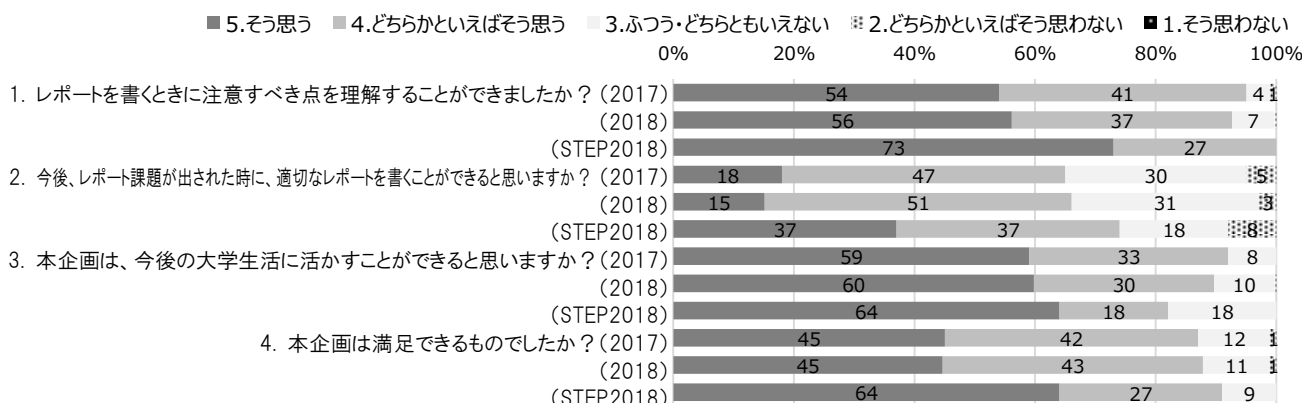


図2 アンケート結果